

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	※説明内容は別紙資料のとおり。以下、質疑応答の部分を記載。 〈テーマ１：住民参加、協働〉 ・パブリックコメントのタイミングの問題（小中一貫校整備の事例で、パブコメが来た時点では内容がほぼ固まっておりフィードバックができなかった）を指摘した。計画の完成前・まだ意見が反映できる段階で町民に示す仕組みが必要である。 ・若者向けにはSNS等でのPRと合わせ、役場来庁時に目に見える形でパブコメ告知を行う工夫が有効。青少年や子どもの意見が町政にもっと反映される仕組みの検討が必要。 ・元町ふれあいサロン（第３木曜日、約30名、65歳以上が中心）のような対面コミュニティでは意見の吸い上げが可能。老人クラブ会長として情報共有も行っている。 ・民生委員による個別訪問での意見集約は個人情報・負担の観点から難しく、現実的ではない。回覧板・広報誌は配布されても中身が読まれないケースが多いという実態を共有した。 ・パブリックコメントへの期待は現実的に限界があり、この会議のような代表性を持つ場での意見集約を最大公約数として位置づける方が実効的ではないかとの意見を述べた。行政が「パブコメをやっている」という自己満足に終わらないよう、出向いて意見を取りに行く姿勢が必要である。 ・みどりの村整備のような具体的事業について、完成前の早い段階で町民に概要を示して意見を募る段階的な情報提供の仕組みが有効との意見を述べた。 ・美幌町アプリを通じた通知・意見提出機能が充実すれば、スマートフォン利用者層の参加促進につながる可能性を提起した。 ・意見がある方が出し方を知らない・場所がわからないという状況を最優先で改善する方針。パブコメだけに依存せず、サロン等での対面意見収集・デジタルツール活用の組み合わせが有効と認識している。 〈テーマ２：広域行政〉 ・行う事業ごとに異なる連携の単位では住民にわかりにくい。わかりやすい枠組みの検討が必要ではないか。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	・新たに広域連携による取組について提案があった。（図書館、文化事業、人材確保） ・「オホーツクブランド」の発信力強化へ、広域での連携による戦略が必要ではないか。 ・周辺市町村と連携した、文化体験の機会を広域的に提供できる仕組みの可能性について意見があった。